



筑波大学
University of Tsukuba



かのや
国立大学法人 鹿屋体育大学
NIFS NATIONAL INSTITUTE of FITNESS and SPORTS in KANOYA

JAPAN SPORT
COUNCIL

日本スポーツ振興センター



Sport has the power to change the world.

It has the power to inspire、

it has the power to unite people in a way that little else does.

Nelson Mandela

修士課程

スポーツ国際開発学共同専攻

Joint Master's Program in International Development and Peace through Sport

鹿屋体育大学パンフレット



かのや
国立大学法人 鹿屋体育大学
NIFS NATIONAL INSTITUTE of FITNESS and SPORTS in KANOYA

【問い合わせ先】
鹿屋体育大学 教務課教育企画係
Tel: 0994-46-4861
Email: kyoumu-j@nifs-k.ac.jp

スポーツと国際開発？

スポーツは、国際社会において社会開発のための重要なツールとして認識されています。スポーツを通じて、教育、ジェンダー、貧困、健康、平和構築など社会課題の解決に取り組む活動が広がるなか、より高度な知識と能力を備えた人材が必要とされています。「スポーツ国際開発学共同専攻」は、スポーツというツールを用いて、国内外で生じている課題の解決に貢献できる人材の育成を目指す修士課程です。筑波大学、鹿屋体育大学、そして日本スポーツ振興センターの三者が共同して、スポーツと国際開発に関する実践的能力を養うプログラムを提供します。学修はすべて英語で行われます。

目的

スポーツ・体育・健康に関する理論的・実践的な知識を英語によって学び、国際平和と友好、豊かな地域社会の創造に寄与できる人材を養成します。

教育目標

4つの能力を身につけることを目標とします。

- 国際情勢と政策および国際的な開発課題に対する知識と分析力の獲得、使命感の育成
- グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力の習得
- スポーツ・体育・健康に関する基礎的知識と実践力の向上
- 国際貢献のためのコミュニケーション力とマネジメント力の向上

本プログラムで養成される能力や特質

- 国際情勢と政策に関する知識とともに、他者や社会への自立・成長、変化・発展、目標達成に対する意志、価値観、そして使命感
- グローバルな俯瞰力と地域社会で生活する人々へのまなざしをもって、実践現場でリーダーシップを発揮できるプラクティショナーとしての突破力
- 世界平和と友好を構築し、人々の生活を豊かにするスポーツ・体育・健康に対する深い理解力
- 国際社会に貢献できるコミュニケーション力とマネジメント力(スポーツ・体育・健康に関連した事業における実践能力、語学力)



専攻長挨拶

堀内 雅弘

鹿屋体育大学大学院 スポーツ国際開発学共同専攻・専攻長

本共同専攻は、スポーツを社会の発展に活かす革新的な取り組みとして、多角的な視点から学び、実践する場を提供します。

2016年、筑波大学と鹿屋体育大学は、日本スポーツ振興センターと協力し、「スポーツ国際開発学共同専攻」を設立しました。本専攻の使命は、スポーツ、体育、健康に関する理論と実践を融合させ、人類の幸福に貢献できるリーダーを育成することです。

本専攻の特色は、スポーツと国際開発の専門知識を深めるだけでなく、科学的な分析・検証を通じて課題を発見し、解決へ導く力を養う点にあります。これにより、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指しています。

さらに、教育・研究の充実を図り、スポーツ科学の発展に寄与することを確信しています。学生、修了生、そして教職員が一体となり、「スポーツ国際開発学」という新たな学問領域を切り拓いていくことを心から願っています。

佐藤 貴弘

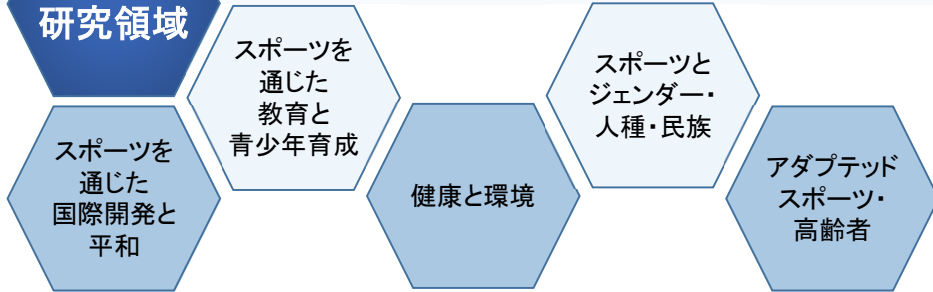
筑波大学大学院 スポーツ国際開発学共同専攻・専攻長

この共同専攻の目的は、スポーツ・体育・健康に関わる知識や実践を基盤にして、国際貢献活動を展開する人材を養成することにあります。21世紀の世界において、民族、宗教、そして政治的対立から紛争、内戦が繰り返され、また地震、火山爆発、津波など大災害が生起することで、多くの移民、難民、そして被災者が生まれています。こうした人たちが平穏な日常生活を営むためには様々な支援が必要ですが、スポーツ・体育・健康に関する知識や実践による支援は益々重要視されています。

からだを動かして学ぶ楽しみは、男性も女性も平等に生きられる喜びを世界の多くの子どもたちに体験させ、生きていく未来を見いだすことができるでしょう。日本の体育科教育、保健科教育は、積極的な生き方や健康な生活にとって重要な基盤であり、そうした教育システムや教員養成システムを世界に普及させることは、国際貢献の一つとなります。

この10年の間、修了生たちは、NGO/NPO組織あるいは民間企業の一員となり、また博士後期課程を経て大学教員として、それぞれの場所で活躍しています。スポーツを通じた国際開発と平和(IDS)について学び、実践力を身につけ、国際社会の中で積極的な貢献活動が展開できる人材になっていただくことを期待しています。

主な研究領域



カリキュラム

スポーツ・体育・健康に関する科目および国際開発学に関連する科目を学ぶ講義(基礎・応用・関連)、学内外での演習、国内外での実践(On the Job Practice)、そして修士論文または特定課題レポートで構成されています。

科目区分	授業科目	単位数			
		必修	選択	計	
基礎	スポーツ国際開発論Ⅰ	1			
	オリンピックムーブメント論	1			
	日本文化伝播論	1			
	スポーツ・文化・社会		1		
	スポーツプロモーション論		1		
	国際スポーツ政策研究		1		
	スポーツマネジメント論		1		
	スポーツと障がい者		1		
	ヘルスポモーション論		1		
	上級コーチ教育論		1		
講義	研究方法論	1			
	比較体育科教育論	1			
	スポーツ国際開発論Ⅱ	1		14	
	経営マネジメント論		1		
	プロジェクトマネジメント論		1		
	研究プロジェクトマネジメント論		1		
	研究プロジェクトマネジメント論(実践)		1		
	社会開発のための公共政策ⅠA* (西暦奇数年開講)		1		
	社会開発のための公共政策ⅠB* (西暦奇数年開講)		1		
	経済開発論*		1		
専門科目	社会開発論*		1		
	多文化共生論		1		
	セラピューティック・レクリエーション概論		1		
	研究データ管理・分析法		1		
	異文化交流・コミュニケーション		1		
	演習	学内			
		スポーツ国際開発学課題演習	4		
		課題研究	4		
		JSCセミナー		1	10
		JSCプロジェクト		1	
実践	学外				
	国外大学セミナー		1		
	国際カンファレンス・セミナー		1		
	NGO等プロジェクト		1		
母国	On the Job Practice (Domestic)		2	6	
海外	On the Job Practice (International)	6			

*の科目の中から2単位選択必修

学生それぞれの興味・関心に合わせて選択できる
テーラーメイド型カリキュラム

すべて英語による学修

Web会議用システムを用いて
筑波大学、鹿屋体育大学、JSCの強みを活かした
授業や研究指導

実践現場における学修を重視
(OJP例)
【母国】
JSCにて、スポーツ国際会議の企画・運営等の支援、被災地の子ども達を支援するNGOにてスポーツ活動等
【海外】
カンボジアにて、障がい者理解教育活動
タイの難民キャンプにて青少年育成活動等

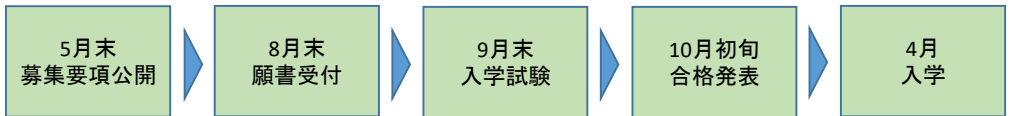
学位

修士(スポーツ国際開発学)筑波大学・鹿屋体育大学
Master of Arts in International Development and Peace through Sport

修了後のキャリアパス

- ・本プログラムを修了した者は以下のようなキャリアパスが期待されます。
- ・国内外のスポーツ関連組織
- ・国内外の開発支援組織
- ・NGOやNPO法人などの非営利組織
- ・国際機関等
- ・博士後期課程進学

入学試験



募集人員

8名(鹿屋体育大学 3名、筑波大学 5名)

出願資格

- ・大学(4年制)を卒業した者・卒業見込みの者
- ・学士の学位を取得した者・取得見込みの者
- ・外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び入学時期までに修了見込みの者
- ・その他

* 出願資格の詳細については、鹿屋体育大学または専攻のホームページに掲載の募集要項をご確認ください。

選抜方法

- ◇ 英語: 出願時にTOEICの公式認定証またはTOEFL受験者用控えスコア、IELTS公式成績証明書の原本を提出*
- ◇ 口述試験: スポーツ・体育・健康に関する基礎知識の評価、研究計画のプレゼンテーション、質疑応答
- * 英語外部検定試験および入学試験の詳細については、募集要項をご確認ください。

問い合わせ先

【鹿屋体育大学】
〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学教務課教育企画係
TEL: 0994-46-4861 FAX: 0994-46-2533
Email: kyoumu-j@nifs-k.ac.jp

スポーツ国際開発学共同専攻HP(鹿屋版)
<https://www.nifs-k.ac.jp/faculties/development.html>



ホームページ
はこちら!
QRコードから
もとべるよ!



鹿屋体育大学 教員紹介

堀内雅弘 教授（研究指導担当教員）

・研究キーワード

運動生理学、環境適応、体温調節機能、脳循環、血管機能

ヒトは、様々な外的環境に適応していかないといけません。例えば、夏の暑熱、登山中の高所（低酸素）などが挙げられます。一方、これらの過酷な環境に適応できるようになり、さらに長時間運動できるようになることは、体温調節機能や持久的体力の向上にもつながります。現在は、主にこれらの適応メカニズム解明を研究しています。これらの研究成果は、より安全に運動やスポーツを行うための効率的なトレーニング方法や熱中症対策を確立する一助となりえます。

北村尚浩 教授（研究指導担当教員）

・研究キーワード

レジャー・レクリエーション、生涯スポーツ学、スポーツ社会学

スポーツ社会学、生涯スポーツ学、レジャー・レクリエーション学が専門です。10年ほど前から、武道の文化的側面と中学校での教育効果について研究しています。

永原隆 教授（研究指導担当教員）

・研究キーワード

スプリント走、トレーニング、コーチング

私は、バイオメカニクスや運動生理学、体力測定などの方法を用いてトレーニング科学の研究を行っています。私の研究では、主にスプリント走について、多角的に分析しています。特に、加速局面を一步ごとに分析するアプローチで研究を実施し、スプリント走のメカニズムやスプリント走パフォーマンスの決定因子について明らかにしています。

石原豊一 准教授（研究指導担当教員）

・研究キーワード

スポーツと開発、スポーツ労働移動、スポーツ社会学、スポーツ史学

私はアカデミアの世界では元々、アフリカをフィールドとして多言語主義とエスニック・アイデンティティを研究しておりました。その後、スポーツ社会学に転向し、アスリートの国際移動を博士論文のテーマとしました。その中で、開発援助活動の中から途上国から野球選手として日本に渡るスポーツ移民の事例に触れ、「スポーツ国際開発」を自分の研究リストに加えた次第です。途上国発の「プロ野球選手」は果たして「途上国の貧困」を救う方策となりえるのか？それを皆さんと一緒に探っていけたらと思っています。

国重徹 教授（授業のみ担当教員）

・研究キーワード

英語教育、多読、異文化理解、メディアトレーニング、アカデミックプレゼンテーション

私は主に多読・多聴による効果的な英語学習プログラムの開発について研究をしております。また、異文化理解や異文化コミュニケーションの重要性や課題、アスリートが英語で適切なメディア対応をできるようにするためのトレーニングプログラムの作成、学生がスポーツ科学分野の研究内容を英語でプレゼンテーションできるようにするための有用な指導方法に関する研究も行っております。本専攻では、Intercultural Exchange and Communicationという授業を、石原先生、ヨーコ・ゼッターランド先生とで担当します。スポーツ国際開発の推進に必要な異文化交流・コミュニケーションの問題について共に考えましょう。

隅野美砂輝 准教授（授業のみ担当教員）

・研究キーワード

スポーツ経営学

私の研究領域はスポーツマネジメント、中でもスポーツマーケティングや、スポーツ観戦者の消費行動研究を専門にしています。スポーツ国際開発学とは異なる分野ですが、スポーツを通じて国際開発活動を行なっていく際には、スポーツマネジメントやスポーツマーケティングの仕組みを利用する機会もきっとあるはずで、スポーツには世の中を良い方向に変える大きなチカラがあります。そのチカラをどのように生かしていけば良いか？スポーツ国際開発学共同専攻を通じて学んでいきましょう。

中村勇 講師（授業のみ担当教員）

・研究キーワード

国際武道論、柔道

柔道の国際普及現場での経験を生かし、武道、特に柔道の普及史や国際化を研究しています。日本文化伝播論の授業を担当。日本の伝統文化に海外がどのように反応し、受け入れてきたのか、武道、特に柔道の国際化の事例を通して検証します。明治維新の30年後、パリの目抜き通りやアメリカホワイトハウス内に武道道場ができた経緯やその後の展開、伝統を守りつつ国際普及を進めることの困難さなどをディスカッションしながら学んでいきます。

棟田雅也 講師（授業のみ担当教員）

・研究キーワード

スポーツツーリズム、スポーツまちづくり

私の研究領域はスポーツマネジメントであり、特にスポーツイベントやスポーツツーリズムを専門としています。スポーツを通じた国際開発や社会貢献を実践していくうえでは、スポーツの価値を生み出し、持続的な活動へとつなげていくためのマネジメントの視点が重要です。スポーツが社会にどのような価値をもたらし、その力をどのように地域や人々の未来につなげていけるのかを、皆さんとともに考えていきたいと思います。